

第2章 目標

江戸川区の温室効果ガス排出量は増加の傾向にありますが、そのうち産業部門は減少の傾向にあり、その他の家庭、業務（オフィスなど）、運輸部門が大幅に増加している状況にあります。

地球温暖化対策は、全ての主体の積極的な取り組みを行う必要がありますが、江戸川区の場合は、民生部門と運輸部門について、特に重点を置いた取り組みが必要になります。

ここでは、「日本一のエコタウン」を目指すにあたり、京都議定書の日本の目標達成のために、果たすべきと考えられる第1次目標と、2050年までに温室効果ガスを半減するとの長期的展望を踏まえた第2次目標を設定しました。

目標

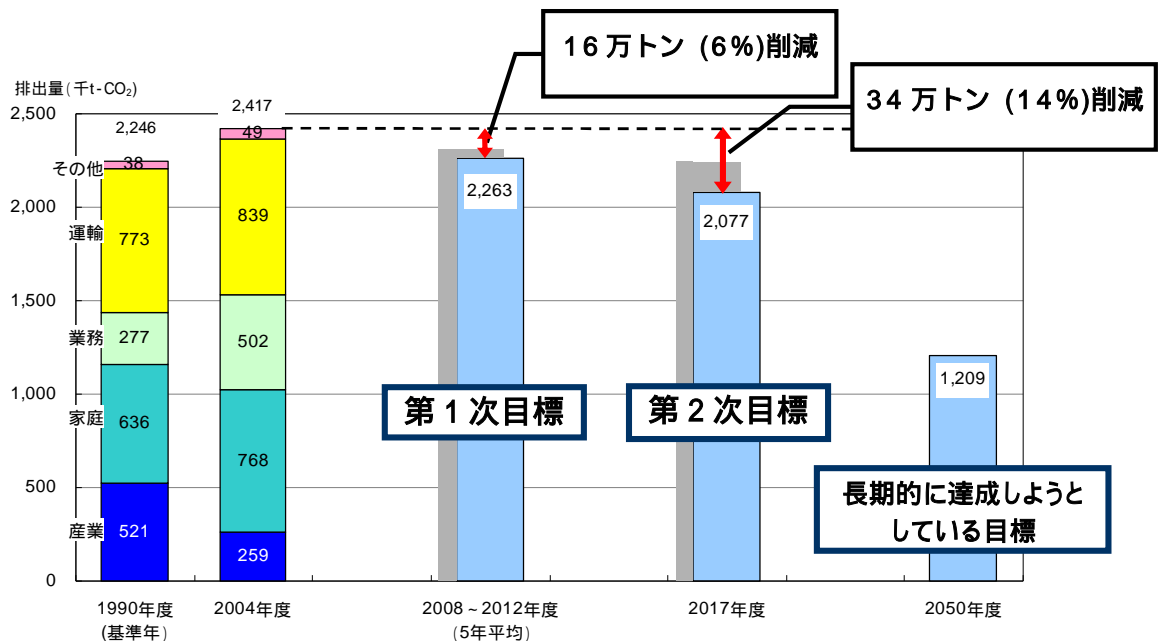
● 第1次目標

2008（平成20）～2012（平成24）年度までの5年間でエネルギー起源二酸化炭素を平均して年間16万トン（2004年度比6%）削減します。

● 第2次目標

2017（平成29）年度にエネルギー起源二酸化炭素を年間34万トン（2004年度比14%）削減します。

注）2004年度を基準にしているのは、現在算定できる最新の年度になるためです。



備考）グラフ中の影は現在の水準で推移した場合に予測される二酸化炭素排出量

図1 エネルギー起源二酸化炭素排出量の現状と将来目標

エコタウンえどがわ推進計画の目標設定の考え方

【京都議定書では】

2008～2012年の5年間平均で、温室効果ガスを90年比6%削減します。

【京都議定書目標達成計画では】

この目標達成のために、エネルギー起源二酸化炭素や非エネルギー起源二酸化炭素を削減するとともに、森林吸収源 や京都メカニズム を活用します。

この内、区民・事業者が主に取り組むことができるのは、エネルギー起源二酸化炭素であり、90年度比で0.8%の増加に抑えることを目標としています。

単位：百万トン

区分	基準年	目標	削減率
エネルギー起源二酸化炭素	1,048 (966)	1,056 (987)	+0.8% (+2.1%)
産業部門	476	435	-8.6%
民生部門	273	302	+10.7%
業務	144	165	+15.0%
家庭	129	137	+6.0%
運輸部門	217	250	+15.1%
エネルギー転換部門	82	69	-16.1%
非エネルギー起源二酸化炭素	74	70	-5.4%
メタン	25	20	-20.0%
一酸化二窒素	40	34	-15.0%
HFC _s 、PFC _s 、SF ₆	50	51	+2.0%
計	1,237	1,231	-0.5%
森林吸収源		-48	
京都メカニズム		-20	
合計	1,237	1,163	-6.0%

注) ()内はエネルギー起源二酸化炭素のうち、江戸川区にないエネルギー転換部門を除いた数値

【エコタウンえどがわ推進計画では】

2012年度までの第1次目標

2012年度までに京都議定書目標以上の削減

京都議定書では、全体で6%の削減を目標としています。目標達成計画では区民や事業者が削減できるエネルギー起源二酸化炭素について、90年度比で0.8%増加としています。

江戸川区の2004年度のエネルギー起源二酸化炭素排出量は241万7千トンです。そこで、この目標設定の考え方を踏まえて、エネルギー起源二酸化炭素排出量を2008～2012年度の5年平均で90年度比0.8%増加分に相当する、226万3千トンまで削減することを目標とします。これは、2004年度比で6%の削減となります。

2017年度までの第2次目標

2050年度までに現状比50%削減に到達できる、2017年度時点の削減量とする

IPCCの最新の報告を踏まえて、2007(平成19)年6月にハイリゲンダム・サミットで発表された「美しい星50(Cool Earth50)」では、全世界共通の目標として、2050年までに温室効果ガス排出量を現状比で半減することが提案されています。

長期的な目標として2050年度に温室効果ガス排出量を少なくとも半減するために、達成しておくことが必要な削減量として2017年度に2004年度比で14%削減を目標とします。